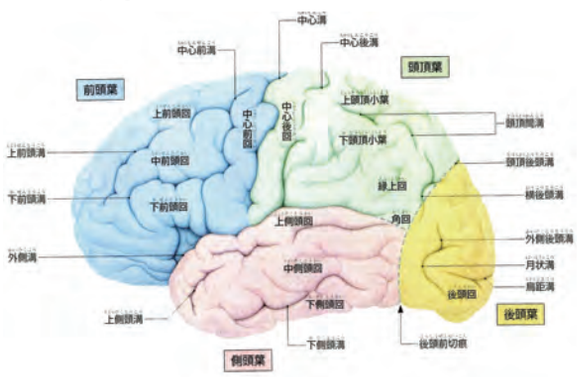
## 認知症とは

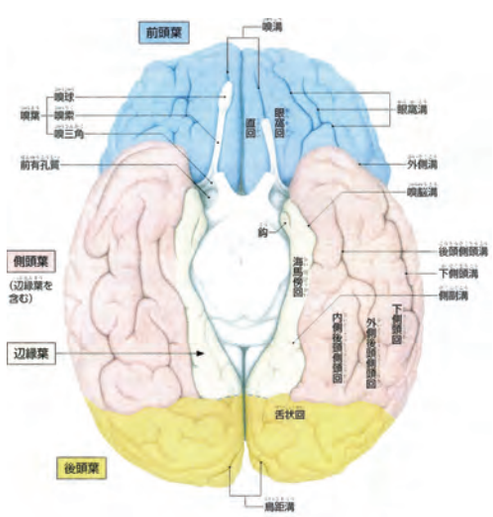
●「認知症」とは、以前は「痴呆」と呼ばれていた状態のことです。

●「認知症」とは、生後正常に発達した知的水準が何らかの原因で著しい低下をきたし、日常生活・社会生活ができなくなった精神状態です。

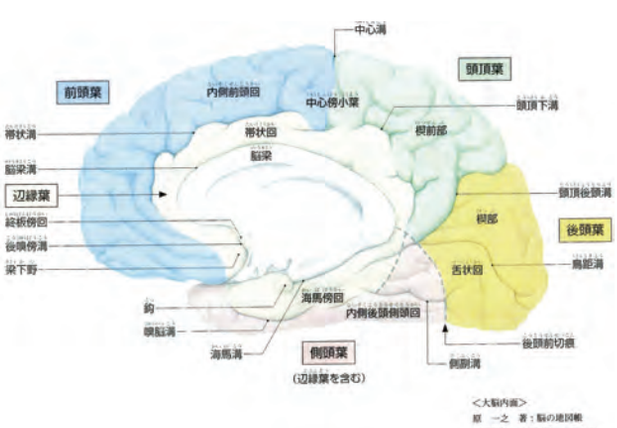
●具体的には、記憶障害（物忘れ）、見当識障害（時間、日付、場所などが判らない）、判断力障害、理解力障害、計算力障害、抽象思考障害（言葉やことわざなどの意味が判らない）、高度大脳皮質機能障害（失語、失行、失認）、感情障害（感情失禁、うつ、躁など）、行動障害（徘徊、攻撃性、不潔行為、過食、異食、拒食、性的逸脱行為、火の不始末など）、注意の障害、人格（性格）の変化などの障害が起こることです。一種の症状群です。その結果、職業・社会生活・対人関係などの支障が生じます。




<大脳外側面>
原　一之　著：脳の地図帳
（講談社　2005年）より引用




<大脳底面>
原　一之　著：脳の地図帳
（講談社　2005年）より引用




<大脳内面>
原　一之　著：脳の地図帳
（講談社　2005年）より引用

（註）失語とは、言語の表現と了解ができないことで、運動失語（うまくしゃべれない）、感覚失語（意味がわからない）などがあります。
失行とは、手足に障害がないのに、動作が正しくできないことで、着衣失行、構成失行などが あります。
失認とは、視覚、聴覚、触覚に異常がないのに、よく知っていることが認識できないことで、視覚失認、聴覚失認などがあります。